

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

〔第80号〕

が ん ば

親子で楽しく

いい絵ができた



春のおとすれとともに、今年度の育友会活動も終りとなりました。会員の皆様のご協力により、子供の大きな事故等もなく今年度を終了することが出来ますことを、厚くお礼申し上げます。

ここ、三年間の三小育友会は、その誇りある長い歴史を大切にしながら、新しい時代に機能し得るニュー三小育友会への基盤整備を手がけました。育友会はいつの世にあっ

今こそ!! 父親の出番

育友会長 成瀬博功

父親の出番だと思うのです。また、子供クラブの分割、統合の問題も多くの皆様のご理解で進行いたしました。お礼申し上げます。

また、今年は地域の健全育成会等の活動へお応えすることへの意味からも、最高学年の六年生をしっかりとさせ、下級生の指導までできるような児童にしたいと先生方と話し合ってきましたが、六年生はこの期待に十分応えてくれたと思

ても、「心身ともに健全なる子供の育成を推進する」ためにあります。そのためには時代にマッチした行動力のある組織でありたいとの願いからです。

特別委員会を組織して取り組み、随分ご無理を申して参加していただきました父親（父性）の授業参観も二年目となりました。この地区を思い、自分の子供を思うとき、やはり

ます。

中学に行かれてもこの好ましい状態を持ち続けてほしいと思います。

新業の朋えるころ、新たな育友会活動が始まります。

育友会はその基本理念にあるように、会員の職業・貧富・年令・学歴などに関係なくオープンな体質です。

皆さんの積極的参加で、一層発展させてほしいと希望いたします。

長崎県教委は先ごろ「ことばに関する調査」の結果を発表した。県教委は「ことばを豊かにする運動推進委員会」を設け、この運動を進めていくに当たって「言葉を豊かにする」というのは、言葉を多く覚えるとか、上手に使うということではなく、「心」を豊かにするということであると説明している。

昨年上京した折、中学時代の後輩で今、日大で英語の教授で客員教授として招かれ、イギリスから帰ってきた先生から聞いた話です。

イギリスは戦争には勝ちました、多くの植民地が独立したりして、経済的にも国際的にも力が弱くなっていると思います。しかし国民全体の礼儀正しさは、やはりジェントルマンといわれるだけあると感心したそうです。特にイギリス人が社会生活において気をつけていることばは、「サンキュー」(ありがとう)と、「ソリー」(失礼)と、「プリーズ」(どうぞ、お願いし

ます)の三つであり、社会全体が子供に対しても、どしどし注意をして、しつけている姿には驚ろかさされたそうです。その先生も地下鉄のキップを買おうとして、行き先を上げお金を出してもキップをくれないので、何回も行き先を言っていると、駅員が「正しい英語を言ってください」といったので、はじめて「プリーズ」と言うのを忘れたことに気づいたそうです。日本に

買いに出かけるのを見てその理由をたずねたことがある。するとその友人は、近くのタバコ屋は、何も言わずタバコとおつりを出して小窓を閉めてしまいが、遠くのタバコ屋は、「どうもありがとうございませう」と笑顔で言うからだと答えた。私は友人の気持ちがかかるような気がしません。大勢の人たちが集まるほどお互いに、お互いに、相手を尊重し、互いにゆずり合う気持ちが必要

要です。他人の労働で自分の生活がお互いになりたっていることを知らなければなりません。私はこれからの島原・日本でも、「サンキュー」「ソリー」「プリーズ」の精神がいつそう必要で、お互いに「心」を豊かに持つことが、大切ではないでしょうかと思う。



教頭 平野 昭 二

イギリスは戦争には勝ちました、多くの植民地が独立したりして、経済的にも国際的にも力が弱くなっていると思います。しかし国民全体の礼儀正しさは、やはりジェントルマンといわれるだけあると感心したそうです。特にイギリス人が社会生活において気をつけていることばは、「サンキュー」(ありがとう)と、「ソリー」(失礼)と、「プリーズ」(どうぞ、お願いし

ます)の三つであり、社会全体が子供に対しても、どしどし注意をして、しつけている姿には驚ろかさされたそうです。その先生も地下鉄のキップを買おうとして、行き先を上げお金を出してもキップをくれないので、何回も行き先を言っていると、駅員が「正しい英語を言ってください」といったので、はじめて「プリーズ」と言うのを忘れたことに気づいたそうです。日本に

私の抱負

新児童会長 松本 環

私は日頃から、思っていた事があります。それは、第一に正しい言葉使いをする学校にする事です。言葉は人の心を傷つける事があります。相手の立場になって語りかけ、注意しあつていきたいと思ひます。第二に、明るい学校にする事です。今頃、新聞にもいじめやけんかの事が、よくのつています。友達の中でもそういう事があります。やさしく注意していききたいと思ひます。注意されたとき「ごめんなさい」と素直な気持ちになりたいたいと思ひます。最後に挨拶のできる学校にする事です。挨拶は人の心をなごやかなものにします。毎日挨拶をすることで、自分の心が相手に通じて一日が良い気持ちで過ごされると思ひます。お客様がこられた時、感じのいい学校だと思われたいと思ひます。まず、自分が手本を示してみんなと仲良くがんばっていけば、きつとりつぱな三小になると思ひます。

巣立つ喜び

前児童会長 伯川 信吾

いくとしかの花咲く春を迎え今頃は小学校を巣立つとしています。先生方をはじめ、たくさんの人達の大きな愛にささえられながらぼく達はこんなに大きく成長しました。勉強をする事、運動、責任感、皆んなで力を合せて最後まで努力しがんばる事、やさしさ、思いやり、教えたらきりがなく、尊い教えを受けました。夏の暑さや冬のきびしい冷たさ、楽しかった遠足、運動会たくさんのお楽しみ、先生方、お母さん、お父さん、みんなのおかげで、ぼく達は、強し生活を共にしてきた一年生、二年生、三年生、四年生、五年生の皆さん本当に長い間ありがとうございました。

凍てつく外気が肌をさすような天気。それでも快晴、島原から二時間半余り、同じ県に住みながらまだ一度も目にした事のない外海町の出津、期待に胸がふくらむ。バスの窓から見る長崎県は美しい半島や入江、島々が多い。滑石のマンモス団地を抜け滑石トンネルをくぐりぬけると急に視野が広がる。西彼杵半島外海町の山々と五島灘である。今はトンネルが開通し道路も良くなったが昔は陸の弧島と呼ばれていたさうである。

そんな谷間に、出津小学校のどかで静かなたたずまいを見せている。イネ作りから取り入れ、イモ作りから収穫まで体験学習の様子をアルバムで見せて頂き、土に親しむ機会の少ない今日を思いうらやましく思う。

夢とロマンの
出津小をたづねて

伯 川 ヒデ子

民族資料館では日本人は農耕民族だなどと思わせられる資料が数多く残されていて昔の日常生活のきびしさなどがしのばれる。特にド・神父記念館では日本の辺地に生涯を生きた一人のフランス人ド・神父の深い愛と生きざまに深



い感銘をおぼえる日本最初の石版術の導入による出版や教育、社会福祉、医療救護、建築、土木、授産事業など超人的なその事業は、貴族の出で、ありながら貧しさに甘んじ、名声を求めず、莫大な財産と深い学問、技術そして生涯の

すべてを日本の辺地で神と人とにささげ尽くした深い愛、それは人間としてもっとも価値ある生きざまであったろうと記されている。

人間の生涯の中で、つねに価値ある瞬間を生きつづけることは容易ではない。毎日何かをしなければと思うつづばんやりと過ごしてしまうものである。自分にはたして他人に何をしてもやれるのかと思う時本当に小さく見えてしまう、それでも、やさしさと思いやりはいつでもどこでも持ち続けられると思うと何かしら心が暖かくなって元気がでてきます。物は豊かになつたが心がついて行けないなどと言われていますが本当に原点に戻り、また新しい出発をしようとするような気持ちにさせられる貴重な研修の旅でした。



佐々川 和子

保健給食部主催の「おかあさんの料理教室」に参加致しました。当日は保健給食部の方々で材料も揃えて下さり、前森先生のご指導のもとで、ひじきごはん、大豆と小魚の揚げ煮、こんぶサラダ、すりみのてんぷら、さつまいものミルクからめ、じゃがいものみそ汁と作りました。料理の後の試食会では、育友会のお母様方とあたたかいふれあいを感じて、時を過ごしました。あくる日、早速献立表を片手に、大豆と小魚のあげ煮を作りました。これは思ったより簡単でもとてもおいしく出来ました。子供達も「給食とちよ」と味が違うけど、まあまあ

料理講習会に参加して

大場 瑞恵

去る二月二十日、保健給食部主催の料理教室に参加させて頂きました。約四十名が四班に分かれて、七品の献立に挑戦致しました。献立内容は給食献立の中から、ひじきご飯、大豆と小魚の揚げ煮、昆布サラダなどでした。前森先生のご熱心な指導の下に、和気あいあいと実習が進み、二時間後には反省を兼ねた昼食会が行われました。意見と致しましては、

- ① 薄味で美味しかった。
 - ② 一年に二・三回行って欲しい。
 - ③ 学校配布の毎月の献立表の中に、一品でも作り方を掲載して欲しい。
 - ④ おやつ調理実習をして欲しい。
- などでした。楽しい半日を過ごさせて頂き、来年度も是非このような計画を立てられますよう、お願い致します。

ね」と言って喜んで食べてくれました。主人も「商売してもよかごたる。ようできとる。」とお世辞を申して、食べてくれました。またひじきごはんも作ってみました。短時間で作れ、栄養があつた、とても良いメニューでした。

浦田 下

中山 博 昭

日ざしも和らぎ春を告げるふきのとうも芽を出し、桜の開花まで、あと一ヶ月足らずになりました。思い起せば六年前、桜舞うなかに、親に手を引かれて、入学したわが子も無事に卒業式を迎えることができ、感無量の思いです。おどおどしながら走ったり、踊ったりした一年生の時の運動会、係の仕事を一生涯懸命に務めながら六年生の時の運動会、目を見張るような我が子の成長ぶりに、驚いたり喜んだり、あつというまの六年間でした。

風邪にかかって学校を休んだほかは、これといった心配もなく卒業できることは、校長先生はじめ、担任の先生方、諸先生方のたゆまない御指導のおかげと深い感謝の念でいっぱいです。このまま怪我することもなくすくすくと成長し、良き師良き友に巡り会い、よりよい人生の基礎を築いてくれたらと思う次第です。

本当に六年間お世話になりました。心からお礼申し上げます。

最後に第三小学校育友会のますますの御発展を心からお祈り致します。



下川 尻町

斉藤 明子

春三月、と申しますが、私共親にとりましては、一年で一番変化の多い月がめぐってまいりました。我が家も上の三人から数えますと、十三年もの長い間お世話になりました。三小を、末っ子が卒業致します。正直、「やっ」と思う反面、これまでお世話になりました先生方を思い、感謝の念で一杯でございます。

一口に教育と言いますが、自分の子ですら、全く同じに育てたつもりが、成長するにつれ、こんなにも違うものか

と、いう程の個性を見せてくれます。長い人生から見れば、まだほんの一步を踏み出したばかりの子供達ですが、これまでの、折々の親や先生の言葉や行動に大きく、小さく影響され、中にはその子の中に、すでに増幅されたものがあるのを見ますと、「子育て」と言う事の難しさを痛感させられます。進学しますと何かと雑音の多いこの頃です。

この六年間の先生方の御苦勞を無にする事のない様どうぞこのまま真直に成長してほしいものと、心より願います。

白山 町

田村 美智子

我家の末っ子で長男の息子が三小の校門をくぐったのは六年前でした。嬉しかった事、楽しかった事、又悩んだ事が走馬灯のように浮んできます。勤めの都合で、時々授業

参観懇談会に出席させて戴きました。いつも有意義なお話を学ぶ事が多くありました。

学級懇談会で、シュークリム作り、試食しながらの懇談会。五年生の時、文化会館で市民音楽祭での音楽会、寒い北風の中のマラソン大会、スポーツ嫌いな息子が、真白な

息を吐きながら、落伍もせず最後まで走り、運動場に入ってきた時はおもわず力いっぱい、拍手してました。小学校時代の思い出を胸に抱き、期待と不安の複雑な気持ちで中学校へと進学する事でしょう。

小学校生活も今年で最後かと思うと淋しさが胸がいっぱいになります。

校長先生、諸先生方、長い間本当にお世話になりました。心から感謝致します。最後に第三小学校育友会の発展と、諸先生方の御健康と御多幸をお祈りいたします。

西八幡町

岩崎 暁子

わが母校、三小へ長女の入学式の日、学校は昔と変わらなかつたか、を覚えしました。

しかし、先生方は初めてお目にかかる方ばかりで、娘以上に不安でした。

あれから十年、りっぱな体育館も出来ました。火災で焼けた古い校舎の後には、近代的な設備の整った校舎が出来、その音楽室で最後の授業参観がありました。楽器の演奏や、楽しい歌声を聞き、子供達の六年間の成長を感じとったのは、私ばかりではなかったでしょう。

十年間の育友会活動を通じて、多くの先輩の方や、友達と出合い、自分自身いろんな勉強をさせて頂きました。又講演会には、なるべく出席して諸先生方の話を聞き、一つでも自分のために努力しよう心がけてきました。でももうお別れです。お世話になりました諸先生、育友会の皆様、長い間、本当に有難うございました。

最後に、三小ならびに育友会の発展を心からお祈り致します。



三 あっという

津 町

山下利秋

「光陰矢の如し」と申しませんが、月日のたつのは早いもので、この春長女が小学校教育を終えて中学校へと進学します。

長男が十二年前に、長女が六年前に期待と不安のまじった顔で第三小学校の門をくぐったのがつい先日のような気がします。

身心共に成長をみせて、進学出来ることは、校長先生をはじめ、担任の先生、諸先生方の熱心な御指導の賜と心より感謝申し上げます。

育友会活動におきましては、町内育友会を皮きりに、三小育友会の各行事に参加しました。たくさんの方々を知ることが出来ました。とを、本当に嬉しく思います。又、いろいろと御指導して頂いた事は、無知な私にとっては良い勉強をさせてもらったと喜んでおります。最後になりましたが、第三小学校と育友会の益々の発展と、皆様の御健康を心からお祈り申し上げます。



有馬舟津

下田恵子

月日がめぐり、三小に入学して六年間、身も心も大きく成長して。今三小を卒業します。脳裏には色々な思い出が次々と浮んでまいります。子供達は今、巣立つ喜びと中学入学まであとわずか、期待と少々不安が交錯した気持ちで、その日を待っているのとあります。卒業は別れでもありますが、出発です。この六年間の学びの窓をステップとしてこれから先、学習も去ることながら、何事も努力を惜しまず、自分の初志を貫徹し、又自分の事だけでなく、

仲間を思いやる心の豊かな人間になる事を望みます。その為には親も子供より一歩前進しておかねば、現在のような多様化する社会では世の進歩について行けなくなりません。振り返りますと、長い間育友会活動に参加させて頂き、反省するとしきりです。子育てと共に私自身が磨かれていく時期であったようにも思います。これまで温かく御指導下さいました校長先生、諸先生、育友会の皆様、長い間本当にお世話になりました。最後に第三小学校育友会のみますますの発展を心からお祈り致します。

緑

柴田智子

三月の卒業期をひかえ思う事は、十一年前、長男の手を引き、初めて三小にお世話になり、二年後に次男が入学、卒業、そして今年長女が三小を巣立ちます。ほっとする反面さみしい思いです。

長女が入学した年の一年間は三人がお世話になり、ソフト・フットベースボールと忙がしかつたが、今はなつかしく思います。

遠足・運動会・少年自然の家・修学旅行・校内マラソン大会、いろんな思い出ばかり、その時期になればなつかしく

思い出す事でしょう。

中学に入っても楽なことばかりじゃないでしょうが、まげずに、いい思い出をたくさん作ってほしいと思います。

ながい間、本当にお世話になりました。

心からお礼申し上げます。校長先生、諸先生、育友会の皆様、ながい間お世話になりました。

最後になりましたが、島原第三小学校育友会の発展と、皆様の健康と御多幸をお祈り申し上げます。

姪子町

前田淳子

六年前の四月に西諫早小学校に入学、そして今年第三小学校を卒業と二つの学校に接し、色々相違点がありました。

西諫早小学校は、歴史も浅くニュータウン地区なので父兄の絆も薄く学校の行事も多くありませんでした。三小は歴史もあり、父兄の活動も活発で、毎年役員の方は大変だろ

うなあと思えました。しかし、三小の子供達は、素朴で飾り気がなく、先生方も親切で本当に良かったなあと感じております。

この春中学生になる子供達に送ることばとして、私は思いやりのある人になってほしいと思います。

近頃、荒れる中学生の言葉どおり自己中心で、思いやりのない人が多くなっています。他人の苦しみの理解出来る人間になって下さい。

現在の子供達は、恵まれ過ぎて忍耐力が不足していると思います。従って中学生になったら、勉強やクラブ活動にと毎日を有意義に悔のない様に過してほしいと思います。

苦しみの後には、かならず大きな喜びが待っています。

が ん ば

六年一組 上村 明

ぼくは、この六年間いろいろな思い出があります。でも今までの時も過ぎ、もうすぐ卒業です。今、ぼくたちは、小学校生活の一日一日を大切にしています。すばらしい思い出をいっぱい作りたいからです。思えば楽しい思い出、つらい思い出、そして悲しかったこともあります。だけど、その悲しさに耐えられたのも先生や友達の励ましの言葉でした。それがぼくにとってはなによりもいい思い出になっています。

六年一組 村 里 由 美

今まで過ごしてきた六年間は、またたくまに過ぎてしまいました。またたくまに過ぎた六年間の中には、いろいろなことがありました。楽しい思い出、悲しい思い出。特に三小での火事は、まだ幼かった心に火事の恐ろしさやどんなにもすこいものかが刻みつけられているようです。

一年・二年・三年・四年・五年・六年といろんな先生方に出会い多くのことを学びました。その中で、頭の成長だけでなく、心の中も自然と

いろいろな思い出の中に「三小のほこり」というものがあり、みじみと分かってきました。そして、教室の前に書いてある「見つめる」「思いやる」「がんばる」の目標に向かって努力したほど三小をほこりと思っているのではないかと思っています。だから、中学校になってこの三つの言葉を三小での学習した宝物だと思って強く自分に生かしていきたいです。そして、今からの人生をまっすぐ一直線に進んで行きます。ありがとう三小、そしてさようなら。

今までの六年間で成長しました。

今心の中には、「他人を思いやる気持ち」「自分をよくみつめおさえる心がけ」「力いっぱいがんばる心」などとたくさんさんの成長をしました。こんなすばらしいことを常に教えてくださった六年間のいろいろな人達との出会い。先生、友達まだまだ多くの人達のことや次々に頭にくってきます。こんなことを思えば長い六年間がまたたくまに過ぎて今があることがよくわかります。三小はすばらしい学校でした。



三小さようなら

六年二組 佐藤 圭太

もうすぐこの三小を卒業します。入学したばかりのときは、学校に行きたくなかった。三小が火事で黒こげになったとき、火事のおそろしさを知りました。四年生の時、長崎見学に行き、原爆資料館で原爆のおそろしさを学びました。五年生では、千々石少年自然の家での宿泊。修学旅行ではホテルで、夜はみんなほとんどねていなかった。

六年二組

三浦 栄子

この六年間をふり返って見ると、いろいろな思い出があります。

ドキドキして三小の門をくぐった入学式。そして校舎の火事には、びっくりしました。五年生での千々石少年自然の家、初めての集団行動。そして六年生。小学校最後の一年なので一日一日を大切にすごそうという気持ちでいっぱいでした。

修学旅行は、熊本でした。ホテルでは、おそくまでみんなと遊んだりしゃべったりし

そして、最後の運動会。みんないっしょけんめいだった。学校対こうりレーでは、一位になりました。総合でも二組が優勝して、みんな大よろこびで、ぼくも大変うれしかったです。

このことは六年間のよい思い出となりました。

小学校で学んだいろいろなことを生かして、中学生になって、精いっぱい勉強にスポーツにがんばりたいと思います。

で、いつまでもねむらうとしなかった。楽しさいっぱいの修学旅行でした。

運動会は、天気が悪く雨だったが、育友会のみなさんとみんなとで、力を合わせて運動場をきれいにし、無事運動会がくり広げられました。

本当にあっという間の六年間でした。

私はこの三小で学んだことを心に刻みこみ、はずかしくないよう卒業したいと思えます。



六年三組

濱田健裕

六年間すごしてきた三小。でも、三小をよくすることで、ちゃんとやれなかったことがあるように思います。それは自分自身の反省でもあるし、下級生のみなさんへのお願いでもあります。

まず、ろうかを走らないこと。今まで、何回注意されても、なかなか守れませんでした。けがをする人もいました。そんなことを、ぜひ、なくしてほしいと思います。

次に、あいさつのことです。

六年三組

谷口博美

わたしは、何気なくこの六年間をすごしてきました。そのせいか、もう卒業だというのに、何か三小に忘れ物をしていようような気がしてしかたがありません。「いわれたことは、だいたいできたのに？」

と思いつきながら、よく考えて見ると、「自分から何でも進んでする」ということがあまりにも少ないことに気がつきました。中学校に行っても、まだ、このままだといけません。

だから、自分の心の目標を、「チャレンジ」にしました。

生活委員が朝早くきて、あいさつをよびかけ、だいぶ、よくなりましたが、まだ、しようとしない人がいます。みんなきちんとあいさつができるようにしてほしいと思います。

最後に、ごみ一つもない学校です。ごみを見て、見えて見ぬふりをして、ひろわいな人がいます。ごみを見たら、すぐ、ごみ箱にすてるようにしてもらいたいです。

他にも、いろいろな問題があるようですが、一つ一つ気をつけて、よい学校にしてください。お願いします。

この三小にわらわれないようにしっかりとやりたいと思います。

ほんとうは、もっともっと三小にいたいけれどしかたがないことです。

三小での六年間の思い出、ありがとう。うれしい時も、悲しい時もこの三小を忘れません。六年間、いろいろなことを教えてくださった先生方！大変ありがとうございました。ほんとうに、みんなありがとう。

さようなら、さようなら、「三小さん。」

思い出ぶかい



六年四組

大場亮

ぼくは、四年生のとき、ひっこししてきたので、三年間だったけど、いろいろなことがありました。

転校してきたばかりのころは、まだことばなどがあまりわからなかったので、友だちがあまりいませんでした。でも、ソフトなどをするようになったら、だんだん友だちがふえてきました。

さきおどりをするようになつてからは、二小の友だちも

六年四組

松本恵美

卒業まで、後わずかとなりこれまでのいろんな思い出が浮かび上がってきます。四年生から始めた白山バレークラブを通して知り合った他の学校の友達。そして、チームワークの大切さ、また、委員会の仕事などの難しいことを、やりとげたことの喜びなどたくさんあります。

特に修学旅行の思い出は、一番の思い出です。バスの中で歌ったり友達との会話、枕投げなど、ほんとうに楽しい修学旅行でした。帰りのバス

できたし、いろいろなところ

にいつておどったりしました。六年生になったら、子どもクラブの部長になりました。その時は、不安だらけでした。でも、やってみたら思ったよりも楽しかった。

あつという間の三年間で中学生になったら、今までとはずいぶんちがつてくるので、これまで以上にがんばろうと思います。

では、「後一日時計をとめて、ほしい。」と思いました。

ほんとうにあつという間の六年間でしたが、三小の言葉にあるように、「見つめる、思いやる、がんばる。」という言葉と「たゆまざる、あゆみおそろし、かたつむり。」という言葉、この二つの言葉を胸にやきつけて、今からの心のはげみとして、今まで以上に、勉強・スポーツ・友達関係に役立てて、りっぱな中学校生活に入りたいと心に決め、新しい出発をします。



一段と盛り上がった相撲大会

体育部長 児 玉 勝 利

一年が過ぎるのは早いものです。今年度の体育部行事全てが終了しました。夏休み始めの子供クラブ球技大会では今年もソフトボール、フットベ-イスボール大会を行いました。昨年は合併できない町内があり、大変心配しましたが今年はその町内はなくスムーズに行われたと思います。九月には女子はお母さん達にも参加頂き親子フットベ-イスボール大会、男子は三年から六年までの相撲大会を行いました。

今年はまだ一段と盛会に終ったと思います。今年の運動会が決行できたのは、校長先生始め諸先生方並びに育友会員役員さん皆様方のご協力のおかげだと思います。町内対抗バレーボール大会も練習にはげまれ盛り上げて頂きました。先生方チームの活躍も目ざましいものがあつたと思います。

体育部行事については、会員の皆

ふりかえって



春の気配が感じられ卒業も間近かになりました。交通部の活動として本田堯先生を中心に部員十三名でスタートし、五日の補導、自転車点検、運動会の交通整理、正しい自転車の乗り方教室など実施して来ました。

中でも、自転車点検には三百六十台もの自転車、点検された事は喜ばしく思います。しかし、それに対し正しい自転車の乗り方教室には、行事が続いたせいか参加者が六十二名と少なかつたのは残念な事でした。自転車はだれでも少し練習すれば比較的簡単に乗る事ができますが、交通ルールをおこたると大きな事故につながるおそれがあります。三小地区は道路が狭く、住宅が密集し、自転車にとつては危険な場所ともいえます。事故をふせぐためにも交通ル

交通ルールを守って 正しい乗り方を

交通部長 岩 永 兼 満

協力ですべての行事を盛大なものがありを見る事が出来ました。役員の皆様並びに体育部員の皆様ご苦労さまでした。本当にありがとうございます。

五の日の補導につきましては、会員皆様方には朝のお忙しい時間に、ご協力いただきまして本当に有難うございました。

ふれ合いの給食を求めて

保健給食部長 柴 田 ミ ホ

今年度の保健給食部の活動も皆様のご協力により終了することができました。

六月、ごほん、みぞ汁、くじらの大和煮、ふりかけ牛乳、子供達が食べている学校給食について、関心を高め理解を深めていただくことがねらいで一年生父兄

の試食会をいたしました。

十二月、保健だよりの発行、二月、白山公民館で学校教育課から講師に前森聖子先生においでいただき、子供達に人気のある給食献立の中からひじきごはん、大豆と小魚の揚げ煮、こんぶサラダ、すりみのてんぷら、さつまいものミルクからめ、じゃがいものみそ汁、ムース、七品を教えてもらいました。今回四十七名のお母さんで白山公民館の調理室はいっぱいでした。さすがお母さん達、短時間で手なれた出来でした。最後になりましたが、手続き、準備、会場、買物など校長先生をはじめ多数の方々にご協力頂き五十九年度を終わることができました。ありがとうございます。

標語選考にも一工夫

生活副部長 江 川 七 重

生活部の活動も皆様の協力により無事、消化することができました。ふりかえってみますと、私自身、勉強することばかりで、あつという間に、一年が過ぎたような気がします。最初の仕事が、生活標語、

募集、作成です。「標語を考えて出しても、どうせ選ばれんとやんば」と言う声を聞き、それをもとに、一点でも多く選ばうと、たくさん作品の中から昨年の倍の五十二点を選び出しました。

それから各町内から一点はかならず入れる、町内の子供の作品はなるべく町内へ張っていただきたいと考え、できた作品を、前期・後期にわけて配布し、町内に貼っていたております。生活部は校外生活指導として、研修会、町内訪問、初市巡視と行なつて来ましたが、皆様の協力がなければできなかったことです。これも役員さん始め会員の皆様の心よい協力があったからだと感謝しております。一年間、本当に有りがとうございました。

自問自答の一年

教養部長 竹 下 力

年度初めには「今日的な問題を提起したい」とやる気充分のような発言をしたものの、うらはらに教養部とは何んだらうと自問しているうちに、一年間が過ぎてしまいました。

教師の目

“マジメ”であることと ひやかす不思議な子ども

川島多恵

三小へピカピカの新任教師としてやって来てもう三年も過ぎてしまいました。

まだ三年生と四年生しか受け持った事はないのですが、とにかくいずれにもぎやかで元気がよく、目立ちたがりや

子どもクラブ紹介

湊町 諸山英美

私たち湊町子供クラブは、男子二十名、女子三十三名、計五十三名の子供クラブです。私たち湊町子供クラブの町内の行事はいろいろあります。廃品回収、六年生を送る会、クリスマス会などがあります。廃品回収は、主にお母さんたちががんばって下さって、私たちは五・六人くらいしか参加しませんでした。私たちがいっしょうけんめい手伝うとお母さんたちは、とってもよろこんでくれます。いつも少

の子どもたちばかりです。休み時間はやたらと元気になり、体の大きさも、外見もたいして自分達とかわらない私を最高の遊び道具として遊びまくるのです。

子ども達から、遊ばれてい

ししか手伝っていなかったの、これからはお母さんたちに喜んでもらえるように手伝いたいと思います。

クリスマス会などは、町内の代議員さんの家を集まってみんなで楽しく歌ったり遊んだりしました。

今年の冬休みには、なわとびの練習を町内の駐車場に集まって練習しました。

いろいろな行事に、お父さんお母さん方が協力して下さいました。いろんな点で本当に助かりました。私たちがお父さんお母さんたちにはばかりたよらないで自分たちでもがんばっていききたいと思えます。

る“なんて言ったら（この先生に受け持たれたら大丈夫かしら）などと思われそうですね。でも、こういうスキップが多いせいかな子どもはよくついてきてくれるのです。一つの目標へむかってみんな協力しとりくむことのできる学級、歌声のある楽しい学級をめざして頑張ってきたのですが、最初は歌声は小さいし、いろいろなことさせるたびにめんどくさそうな顔して、うへへ”なんて言っていました。

しかし、学級はそれを何回もくりかえしていくので次第にあたりまえになっていくのです。遠足の時だつてバカでかい声で歌いながら歩くのです。そうすると他のクラスの子が来て「先生はずかしやめさせんね」と言うのです。また、こんなこともありま

した。教室へ他の学年の子どもよく遊びに来るのですが、私のクラスの子と一緒に帰ろうと呼びに来てついでに遊んでいて「先生〇〇ちゃんはマジ？」と聞いたので、その子は活発で明るく、学級の取り組みも自分で考え出してよくするので「とってもいい子よ。」

と答えようと思っていたら、その子が先に「うちマジじゃなかネ先生、マジじゃなかネ」とひたすら否定するので。あたりまえのことをする子どもを“マジ”という言葉でひやかす子ども。自分は“マジ”であることを悟られま

いとすると子どもも。……なんとも世の中狂っていますネ。もつと子どもらしく、何にだつていっしょうけんめいに取り組める素直な子どもに育ってほしいものです。

編集後記

五十九年度の最初のがんばり編集後記に「特に今年のおすすめは広報誌づくりのペテラが配属され、編集会議にも熱が入ります」と書いており、内容については更に工夫をこらし、見て読みやすく、親しまれる紙面になるよう一層の努力を、ということでスタートしました。

ようと検討を重ねたため、十一時半頃までかかり、古い部員の方から「いつも十時前には終つた」と言われ新しい部員は恐縮するばかり。

会報作りも前年度同期の会報をみて、その企画で編集したり、寄稿記事で紙面を埋める作業の繰り返しなら、これ程楽な部活動はないと思う。しかし、より良い育友会のあり方を求める中で、広報活動のあり方も重要であると思う。そのための調査やアンケート等、広報部独自の企画編集により、多くの人に知ってもらうことも広報の使命と考え、七十七号でアンケート調査を試み、その結果は掲載しましたが、広報部の意向を組み取ってもらえず、調査中に非難を受けたことは残念でありません。見解の相違で問題点はあったことと思うが、今後そのような事があれば「より良き会報、活力ある会報」を作ることは大変難しい、と考えことなかれ主義で与えられた任務を全うすればそれもよしと思うこの一年でした。

最後に会報は会員全体で作るものです。皆さんの声や意見を投稿していただき、育友会発展のため今後ともご協力をお願い申し上げます。(S)